

## リーダーシップフォーラム 感想

精華高校インターアクトクラブ

2004年8月29日(日)、インターアクトクラブ顧問・生徒60名、ロータリアン20名、車いすハンドボール関係者20名の参加をいただき、リーダーシップフォーラムを開催しました。場所は、堺市泉北ニュータウンの南端にある大阪府立障害者交流促進センター(ファインプラザ大阪)です。ここは、障害者がスポーツを楽しむとともに、健常者との交流を図るという素晴らしい施設です。

リーダーシップフォーラムの目的は、各校のリーダー達の親睦・養成にあります。加えて今回は、昨年の高野山高校でのテーマ「福祉体験にふれること」を引き継いでいます。昨年は、高齢者福祉を中心にいろいろな体験をしましたが、今回は障害者スポーツという切り口で、福祉体験をしてもらいました。

開会式では、来賓の大阪車椅子ハンドボール連盟理事長、大門雅人先生から、障害者スポーツ、とりわけ車いすハンドボールについて、詳しく紹介していただきました。「障害者でもスポーツを楽しんでいる方はたくさんおられます。でもチームプレーは余りありません。車いすバスケットボールは有名ですが、難しいので誰もが出来るわけではありません。スポーツの楽しみの一つが、一緒に汗を流すことです。その点この車いすハンドボールは、比較的簡単ですので、障害の重い方でも、子どもさんでも、初心者でもそれなりにチームプレーを楽しめます。さらに、障害者と健常者が同じ立場で一緒に楽しむことが出来ます。この体験を通して障害者スポーツに目を向けていただきたい。秋にある大阪大会、冬にある全国大会に、ぜひ参加して下さい。」というお話しでした。

午前中は、まず車いすの操作練習。

参加者を3つの班に編成して、交代で体験しました。指導して下さったのは、車いすハンドボールチーム「ファインクライフ」の方々です。メンバーは障害者・そのご家族・ボランティアの方々で、楽しくスポーツに取り組んでおられます。その様子は、昨年夏の24時間テレビ「愛は地球を救う！」で紹介され大きな反響を呼びました。

前進、ターン、後進、停止、ジグザグ……

最初はなかなかうまく操作できません。でも慣れてくるとスポーツを楽しむための自走用車いすは、思ったより軽く動きます。インターアクターに混じって、顧問の先生や、ロータリアンの先生も楽しんでおられました。障害=車いす=福祉とかいうと、つい堅苦しく思いがちです。でも車いすハンドボールはスポーツです。まず「楽しむ」ことが大切です。

午後には、いよいよゲームです。

まずインターアクターは、

1班(青組) 初芝富田林、初芝堺、松原、和泉(男子4名、女子8名)

2班(黄組) 高野山、清教、羽衣、飛翔館(男子5名、女子9名)

3班(赤組) 堺女子、開智、清風南海、精華(男子4名、女子11名)

の3つの班に分けられました。さらに、ゲームは1チーム6名で行いますので、各班で相談して男女混成のA、B2チームを作りました。全部で6チームになりました。そして各班のAチーム3つが集まりAブロックを、Bチーム3つが集まりBブロックを作りました。それぞれのブロックでリーグ戦を行い、1位のチームが優勝決定戦をおこないました。

同じチームのメンバーは、力を合わせて頑張り優勝をめざしました。またAチームがゲームをしているときにはBチームが応援し、BチームがゲームのときはAチームが応援し、一番熱心な班にもらえる応援賞を目指しました。こういう要領で、各班内の交流も図れました。

みんな初めての経験なのに、好試合の連続でした。Aブロックでは2チームがタイ、Bブロックではなんと全試合が引き分けで、3チームがタイという大接戦でした。それぞれサッカーのPK戦にあたる、各チーム3名による5メートルスローでやっと決着がつかしました。Aブロックからは3班が、Bブロックからは2班が、勝ち上がってきました。

Aブロック

	1班	2班	3班
1班			
2班	x		x
3班			

5メートルスローの結果  
1位 3班

Bブロック

	1班	2班	3班
1班			
2班			
3班			

5メートルスローの結果  
1位 2班

2班Bチーム対3班Aチームによる決勝戦  
選手達も今まで何試合か経験して、車いすハンドボールにも慣れてきたので、手に汗握る大熱戦でした。

結果は 優勝 3班Aチーム  
準優勝 2班Bチーム  
応援賞 1班

というものでした。

その後、6チームから1名ずつ選抜した「オールインターアクト」チームが、「ファインクライフ」に挑戦しました。前半はシーソーゲームでしたが、後半「ファインクライフ」のレギュラーメンバーが出場してきたら、しだいに点差が開いてきました。いろんな障害をもっているとはいえ、アスリートとして練習に励んでいる方々とボランティアのチームです。強かったです。最後は9対4で破れました。でも初めての車いすハンドボールで、しかも急造チームとしては大健闘です。ゲーム終了後、自然に大きな拍手が起こりました。

閉会式では、北口正文先生から、表彰がありました。みんな一生懸命頑張ったので、とても喜んでいました。その後、来賓の大阪車椅子ハンドボール連盟会長、宮崎寛先生から講評をいただきました。「インターアクターが、熱心に車いすハンドボールに取り組む姿に、感動しました。これからも、このスポー

ツに対する理解と協力をお願いします。さらに車いすハンドボールが、パラリンピックの正式種目になれるように頑張っていきましょう。」というスケールの大きなお話しでした。

障害者というと、つい「助けてあげないといけない存在」とだけ考えてしまい勝ちです。でももっと自然体でいいのではないのでしょうか。一緒にスポーツを楽しむことによって、真剣にゲームを戦うことによって、「ともに楽しむ存在」、「ともに生きて行く存在」だということも、実感されたことでしょうか。本当の意味での「共生」とは、こういうことではないのでしょうか。

こうした意義深く楽しい行事が、無事終了できたのは、いろいろな形でご協力いただいた方々のおかげです。ロータリアンの先生方、インターアクトのみなさん、本当にありがとうございました。そして、大阪車いすハンドボール連盟の方々、本当にありがとうございました。